

1～2歳親子向け 親子で遊ぼう

集まって一緒に遊ぶだけではなく、お母さん同士でおしゃべりしたり、ほかの子どもの様子を見たり——子育ての“仲間”とふれあい、共感しあい、子育ての喜びや楽しさを見つけてほしいと願っています。

親子遊びを楽しむなかで、自然に互いを知り合えるような〈しかけ〉を用意しています。

親と子から、家族と家族へ 〈あそび〉をとおして広げる“ふれあい”

初めて出会った親子が、自然にうちとけて、一緒になって遊べるようにプログラム作りを工夫しています。親子で“作る”だけでなく、“作る”過程で家族同士がふれあえる環境〈しかけ〉を用意したり、“作ったもの”でみんなで遊んだり——スタッフがかかわりながら、親子のふれあいを楽しめるプログラムを作っています。

引越しゲーム ●ゲームをきっかけに、コミュニケーションをはかる

椅子取りゲームをアレンジしたものです。1～2歳の親子なので、“動き”も少なくして、その代わりにみんなで楽しめ、互いを知り合える〈しかけ〉を工夫しました。おしゃべりのきっかけ作りにする“チャットカード”もその一つです。

□ゲームの進め方□

椅子を円になるように並べ、子どもをひざの上に乗せて、みんなが向かい合うように座ります。椅子の数は、参加者の人数より一つ少なくします。

鬼がまん中に立って、ゲームスタート。

最初に、全員で、『メリーさんのひつじ』の替え歌を、手拍子をつけて歌います。

♪お～やこで
♪おひっこし～
♪おひっこし～
♪おひっこし～
♪お～やこで
♪おひっこし～
♪たのし～いな～



イラスト：いがき けいこ

歌が終わったところで、鬼がみんなに質問をします。「今日、朝ご飯にパンを食べてきた人～！」——など、どんな質問でもかまいません。該当する人がたくさんいるような質問をすると、ゲームは盛り上がります。

質問事項に該当する人は、子どもを抱っこして“お引越し”

です。椅子から立ち上がり、ほかの椅子に移動します。引越し先が見つからなかった人（椅子に座れなかった人）が、新しい鬼になります。

□“チャットカード”について□

“チャットカード”は、話のきっかけ作り利用します。季節や行事にあわせて、質問事項を考えておきます。

「季節の行事の思い出は？」「最近のおもしろいエピソードは？」「好きな食べ物は？」その理由は？」「好きな曲のタイトルは？」など、誰もが答えられそうな内容にします。「○○です」とひとりで終わらせないように、理由なども聞きます。

鬼になった人は、スタッフから“チャットカード”を引いて、みんなに見せます。自己紹介を兼ねて、“チャットカード”に書いてある質問に答えます。

うまい具合に、全員が交代で鬼になるとは限りません。ほぼ一巡したら、「鬼にならなかった人」に立ち上がってもらい、“引越し上手”を讃え、自己紹介してもらいます。

□ワンポイント・アドバイス□

親子遊びのなかに、親子がふれあう場面だけではなく、家族と家族がふれあえる場面を組み込むようにしています。難しく考えることはありません。ひと言ふた言、話してもらっただけで、場の雰囲気が変わってきます。無理強いにならないように、〈あそび〉のなかで、自然に“言葉”をかわさなければならぬ場面を作るように工夫しています。

1～2歳親子の特徴

子どもを出産してから、夢中で子育てをはじめたお母さんが、ほっと一息をつけるようになるころです。お父さんも、どのように子育てにかかわればよいのかを悩み、子どもとの意思の疎通の難しさを感じながらも、日に日にかわいらしさが増していく我が子に目を細めます。

親子で一緒に過ごす時間も増えていきます。子どもが楽しめる施設に出かけるようになるのも、このころからです。子どもは、“家族”という世界から、広い世界へと踏み出していきます。

お母さん・お父さんは、子どもと一緒にいる幸せを実感していても、子育ての緊張感は続いています。緊張感から開放されて、リフレッシュできる時間を求める傾向があるようです。同じように子育てをしている家族と出会い、過ごすことで緊張感がやわらぎ、“安心”へとつながり、リフレッシュできます。子育て中のいろいろな“仲間（家族）”と出会い、ふれあうことが、子育ての楽しさを実感する機会にもなります。

かくれんぼ

●おめん作りから始め みんなで動物かくれんぼ

工作（おめん作り、隠れ場所作りほか）と、かくれんぼを組み合わせた親子遊びの活動です。全体を〈動物〉のテーマで統一し、集まったみんなで“おはなしの世界”で遊ぶかたちにしました。

□プログラムへの導入□

最初に、〈動物〉が出てくる絵本やパネルシアターを見せ、かわいらしい、強そう、毛がふさふさしているなど、興味をわかせます。

動物に興味を持ったところで、スタッフが“動物のおめん”をつけて、子どもたちにも「動物になってみよう！」と呼びかけます。家族みんなが〈動物〉になるために、みんなで“動物のおめん”を作ります。

□“動物のおめん”作り□

“動物のおめん”は、参加した家族全員（母、父、子など）のものを作ります。（「動物のおめん作り方」の欄参照）

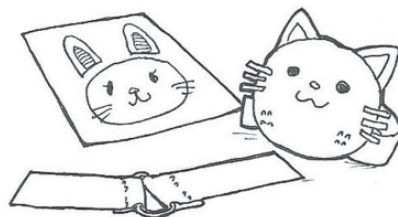
制作時間は、子どもの集中力を考えて、20分程度にします。終わりの時間を決めて、家族で話し合いながら、自由に作ってもらいます。見本を用意するなど、スムーズに制作ができるような環境作りも工夫します。

“動物のおめん”ができ上がったら、家族全員でかぶって、全体が見わたせるように丸くなって座ります。マイクを回し、各家族の“動物のおめん”を紹介してもらいます。

動物に変身して、何をして遊ぶかをみんなで考えます。「動物は、どこにいるのだろうか？」「樹や草のかげに隠れているよねっ」「みんなも、草や樹のかげに隠れなければ——」と、最終的に《かくれんぼ》になるように誘導します。

□動物のおめんの作り方□

3～4cm幅の細長い紙の両端を折り、輪ゴムをとおしてホチキスでとめ、土台となる“紙のバンド”を作っておきます。大人用と子ども用を作り、区別できるように色分けしたり、



目印をつけておきます。ホチキスの針があたらないように、留めの部分にはセロハンテープなどをはり養生しておきます。

画用紙に動物の絵を描いて、クレヨンで塗り、おおまかでよいので、形にあわせて切り抜きます。耳などは、切り抜いたりはりつけたりして、動物の形にします。

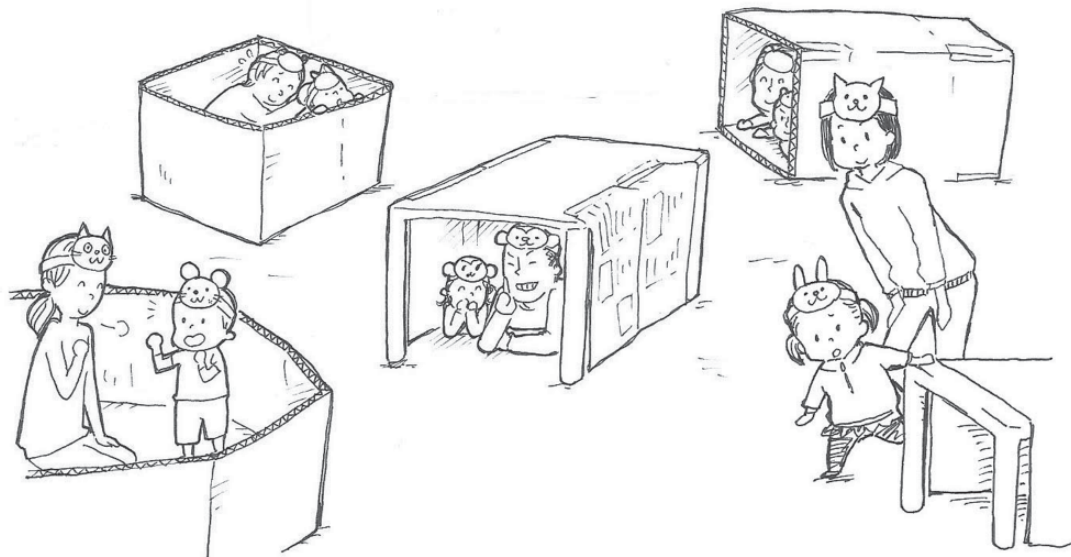
動物の顔を“紙のバンド”にホチキスで留めて完成です。かぶった時に、ホチキスの針が肌に当たらないように、針が外を向くように留めます。

□ジャングルの隠れ場所作り□

《かくれんぼ》して遊ぼうと決まったら、隠れる場所を作ります。段ボールの空き箱や布などの材料を用意し、お父さん・お母さんに作るものを説明します。作るものは2種類。みんなが隠れる場所（数か所）と、見つかってしまった家族が“待機する場所”です。

テーブルや衝立てなど、危険性のないものを利用することもできますが、手作りのもののほうが、楽しくなります。また、制作していくなかで、親同士の会話ははずみます。

おめん作りでは親と子、隠れ場所作りでは家族と家族というように、ふれあいの輪が広がって行きます。



□動物になって《かくれんぼ》□

1回目は、スタッフが鬼の役、隠れる役の見本となって、一緒に参加します。隠れ方や見つけ方の参考となるように、声かけをしながらリードします。

「もういいかい」「まーだだよ」「〇〇みーつけた」など、決まり文句も確認しておきます。

《かくれんぼ》は、家族単位で動くようにします。隠れるのも家族単位なら、鬼も家族単位で動いて探すようにします。

鬼は、隠れている家族を見つけたときには、一人ひとりの名前（動物の名前）を呼ぶようにします。見つかってしまったら、“待機する場所”に移動して、みんなが見つかるまで待ちます。

最後まで隠れていた家族に、優勝のメダル（紙や折り紙、リボンなどで作ったものを事前に用意しておく）を贈ります。その

後、参加賞としてスタッフが子どもたちにメダルをかけてあげます。次に、大人にメダルを渡し、父母または母同士でメダルをかけ合うようにします。

最後に、保護者に感想を話し合ってもらいたいかもしれません。

□ワンポイント・アドバイス□

親と子どものふれあいから、家族と家族のふれあいに広がっていくようにしています。初対面の親子なので、まず親子がその場になじむことが大切です。スタッフは、参加親子の様子をみながら、人と人とを“つなぐ”ように配慮します。

工作も、きれいに作ることを目的ではなく、作る過程を親子で楽しむ、作ったものでみんなで遊ぶことがねらいです。かんたんに作れるものになっています。